

主催者挨拶

1945 年（昭和 20 年）8 月、原子爆弾により、広島・長崎の街は一瞬にして焦土と化し、その年のうちに 20 万人以上もの尊い命が奪われました。かろうじて生き残った方々も、核兵器特有の脅威である放射線による悲惨な後障害をはじめ、心身に負った深い傷に苦しんでいます。

現在、核兵器保有国をはじめ国家同士の信頼関係は大きく損なわれており、核軍縮や核兵器廃絶を目指す動きは停滞し、逆行しかねない状況にあります。

このため、市民一人一人が被爆者の「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」というメッセージに込められた思いを共有し、核兵器のない平和な世界の実現に向けて、市民レベルで平和の連帯を広げていくことがますます重要になっています。

広島市では、世界 166 か国・地域の約 8,500 の平和首長会議の加盟都市と連携しながら、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際的な機運を高めるため、国内外での原爆・平和展の開催やインターンシップの実施、平和宣言の発信等、多数の事業を行っています。その他、被爆体験の継承や伝承、市民団体と連携した平和意識の醸成活動にも力を入れて取り組んでいます。

杉並区では、1988 年（昭和 63 年）3 月、世界の恒久平和と核兵器の廃絶への願いを込めた「杉並区平和都市」を宣言しました。2028 年（令和 10 年）には、宣言から 40 年を迎えます。そして、1954 年（昭和 29 年）に区内の女性たちから始まり、国境を越えて世界を動かす大きな力となった原水爆禁止署名運動の歴史を大切にしています。

今年、戦後 80 年が経過しようとしている現在、世界の各地で悲惨な紛争や戦争が続いており、ウクライナをはじめ、ガザなど、その戦禍は止むことはありません。さらに、核兵器の使用も危惧されています。

こうした中、戦後 80 年の節目を迎え、平和への想いを一層深めるために、広島市との共催のもと「ヒロシマ原爆・平和展」を開催する運びとなりました。

本展では広島平和記念資料館で展示されている貴重な被爆資料等を区役所でご覧いただけます。ご来場いただきました区民の皆様にとりまして、平和への想いを新たにいただく一助となることを願っております。

終わりに、本展の開催に当たり、格別のご尽力をいただきました関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

2025 年（令和 7 年）8 月

杉 並 区 長 岸本 聡子

広 島 市 長 松井 一實